

参考資料 2

●容量算出方法

◆白熱灯・電熱器等抵抗負荷の場合

$$\text{発電機容量 PG (KVA)} = \text{負荷の合計 (KW)} \times \frac{1}{\text{発電機の定格力率}}$$

(例) 白熱灯 100W×6 台、電気ストーブ 500W×3 台使用した場合

資料提供：デンヨー(株)

負荷合計容量 (P) は、 $P = (100W \times 6 + 500W \times 3) = 2,100W$

(単相発電機の場合)

発電機容量 $PG1 = 2,100W \times 1/1.0 = 2,100VA \rightarrow 2,100VA \times 1/1,000 = 2.1KVA$

単相発電機では、2.1KVA 以上の容量が必要となります。

(三相発電機の場合)

発電機容量 $PG3 = 2,100W \times 1/0.8 = 2,625VA \rightarrow 2,625VA \times 1/1,000 = 2.7KVA$

三相発電機では、2.7KVA 以上の容量が必要となります。

◆誘導電動機(モーター)の場合…定常時の発電機容量

モーターは出力 (KW) で表示されており、モーターに出力分の仕事をさせるための必要な電力が「入力」で、定常時運転に必要な発電機の容量です。

$$\text{入力 (KW)} = \frac{\text{出力 (KW)}}{\text{モーターの効率}} \quad \text{入力 (KW)} = \frac{\text{出力 (KW)}}{\text{モーターの効率} \times \text{モーターの力率}}$$

参考：1 馬力 (PS) = 0.7355KW

効率=85% (三相誘導モータ)

力率=0.8 (三相誘導モータ)

■外箱接地(アース接続)

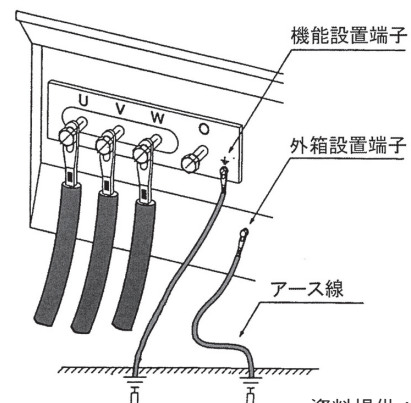
漏電保護対策のため、接地を施してください。

使用電圧 300V 以下の場合、100Ω以下 (D 接地工事)

使用電圧 300V 以上の場合、10Ω以下 (C 接地工事)

※注意：0 端子をアースにしないでください。

発電機を焼損する危険があります。



資料提供：デンヨー(株)

■負荷の接続(ケーブル接続)

負荷のケーブルを接続する時は、締め付けボルトをスパナ等で締め付けて下さい。

使用する負荷(機器)の相数(単相・三相)、電圧を確認してください。

